

令和8年度 第3回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和8年7月21日（火）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所 14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、金子 朋子、山下 正博
大橋 信之、岡野 里香、阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 国内における麻しんの発生状況について（資料1 P 1～ 10）

広島市において、第25週（6月15日から6月21日）に麻しん患者2例が報告され、令和8年の累積報告数は3件となった。感染症週報において患者の報告数や年齢について公表を行うとともに、定期接種者への早めのワクチン接種や、麻しんを疑う症状が現れた場合、医療機関に事前連絡の上、公共交通機関の利用を控えて、医療機関の指示に従って受診するよう呼びかけを行った。

また、感染可能期間内に患者が利用した医療機関・職場等について調査を行い、接触の疑いのある者について3週間の健康観察を実施したところ、新たな麻しん患者は確認されなかった。

全国においては、第27週（6月30日から7月6日）までに累計547件の報告があった。週別の報告数を見ると、第17週（4月20日から4月26日）の71件をピークに、第23週（6月1日から6月7日）から第27週にかけては5週続けて10件未満と減少傾向を示している。

本市としては、引き続き今後の発生動向について注視していくとともに、ホームページなどを活用し、感染予防対策の周知徹底を行っていくこととする。

（委員意見）

- ・引き続き今後の発生動向に注視する必要がある。

(2) 今夏の急性呼吸器感染症（ARI）等への対策の推進について（資料1 P 11～ 70）

令和8年6月30日、国は今夏の急性呼吸器感染症（ARI）等への対策の推進について事務連絡を発出した。今夏の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等のARIの流行に備え、「急性呼吸器感染症に関する特定感染症予防指針」に基づく対策の推進を求めている。

夏季は新型コロナに加え、ヘルパンギーナや咽頭結膜熱、手足口病などの感染症の増加も見込まれることから、学校、高齢者施設、医療機関等において、手洗い・咳エチケットや換気等の基本的な感染対策を徹底するとともに、感染拡大時に備えた保健・医療提供体制の確認や関係機関との密接な連携が重要であるとされている。なお、本対策はこれまでの感染症対策を改めて整理したものであり、既存の取組の再確認と確実な実施が求められている。

（委員意見）

- ・病原体サーベランス等を活用し、インフルエンザや手足口病などの感染症対策に努めてほしい。

(3) 令和7年度における本市の予防接種実施状況について（資料1 P 71～ 87）

令和7年度における本市の予防接種実施状況を取りまとめた。

麻しん・風しんワクチン接種率は、1期が93.3%、2期が91.2%と昨年度と比較して接種率が上昇したものの、いずれも国が特定感染症予防指針で定める接種目標（95%）を下回った。

HPV ワクチンについては、キャッチアップ接種期間終了前の接種需要が集中したことで接種率が高い水準となった前年度と比較して1、2、3回目いずれも接種率が低下した。定期接種の対象者である小学校6年から高校1年相当の女性27,223人のうち、1回以上当該ワクチンを接種したことがある者は8,817人（接種率:32.4%）であり、そのうち接種を完了した者は2,530人（接種率:9.3%）であった（令和8年4月1日時点）。

令和7年度においては、キャッチアップ接種の対象だった者などのうち、期間中に1回以上接種を受けた者について接種期間が1年間延長されたことから、対象者へ接種勧奨通知を個別送付するとともに、広報紙やSNSなど多様な媒体を活用し、制度の周知を図った。また、子どもの定期予防接種に係る接種券・予診票の取扱いを一部見直し、これまで医療機関に備え付けていた予防接種については個別送付へ切り替えるなど、接種勧奨の取組を推進した。

今年度についても、広島駅におけるデジタルサイネージやマツダスタジアムのバックスクリーンでの放映を実施するなど、効果的な広報媒体を活用し、ワクチン接種に関する情報発信及び接種勧奨の周知徹底を図っている。

今後も様々な機会を捉えて、引き続き対象者及び保護者等に対する情報提供や広報活動の充実を図り、接種率の向上に努めていく。

（委員意見）

- ・ HPV ワクチンの男性に対する定期接種化について、国の動向に注視する必要がある。
- ・ 接種率向上に向けて、引き続き効果的な広報活動の実施に努めてほしい。

2 6月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和8年6月分	令和8年7月分
		報告日 6/1～7/5	報告日 7/6～7/12 現在
2類	結核	11 人 (結核 6 人, 潜在性結核 5 人)	2 人 (結核 1 人, 潜在性結核 1 人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	8 人(1 人(6/6), 1 人(6/8), 1 人(6/13), 1 人(6/17), 1 人(6/18), 1 人(6/22), 1 人(6/25), 1 人(7/1))	2 人(1 人(7/6), 1 人(7/9))
4類	レジオネラ症	4 人(1 人(6/2), 1 人(6/17), 1 人(7/3), 1 人(7/4))	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1 人(6/17)	
	急性脳炎	1 人(6/1)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人(6/12)	
	梅毒	10 人(1 人(6/2), 1 人(6/3), 1 人(6/4), 1 人(6/10), 1 人(6/18), 1 人(6/24), 1 人(6/25), 1 人(6/30), 1 人(7/1), 1 人(7/3))	4 人(1 人(7/6), 2 人(7/8), 1 人(7/9), 1 人(7/10))
	破傷風	1 人(7/1)	
	百日咳	3 人(1 人(6/5), 1 人(6/10), 1 人(6/24))	
	麻疹	2 人(1 人(6/15), 1 人(6/19))	

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和8年9月28日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

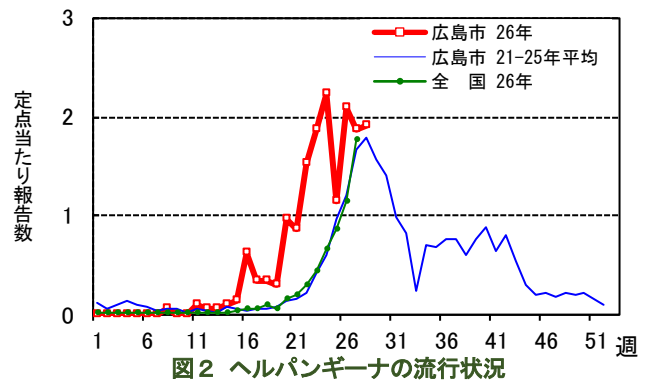
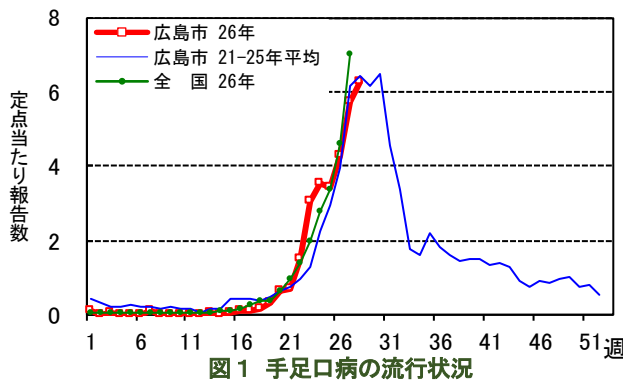
(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、6月は10,831人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は1,631人で、前月比1.35とやや増加した。

R Sウイルス感染症、手足口病、ヘルパンギーナは大きく増加、水痘は増加、咽頭結膜熱はやや増加、感染性胃腸炎、突発性発しん、急性呼吸器感染症（ARI）はほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや減少した。

(2) 特記事項

- 手足口病は、乳幼児を中心に夏季に流行する感染症である。5月から増加傾向であり、第28週（7月6日～12日）に定点当たり6.29人の報告があった（図1）。全国でも増加が続いており、注意が必要である。回復して症状がなくなった後も2～4週間程度、便中にウイルスが排出されるため、手洗いの励行、オムツの適切な処理などの感染予防対策が重要である。
- ヘルパンギーナは、第28週に定点当たり1.90人の報告があった（図2）。多い状況が続いており、注意が必要である。手洗いの励行、オムツの適切な処理などの感染予防対策が重要である。



- 水痘は、第28週に定点当たり0.62人の報告があった。年間報告数は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた2020年以降は例年を下回り、2021年から2023年は低い水準で推移していたが、2024年以降は以前の水準に近づいている。予防にはワクチン接種が有効であり、定期接種対象者は早めに接種することを推奨する。
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、第28週に定点当たり0.24人と低い水準で推移しているが、全国では第27週（6月29日～7月5日）に定点当たり1.47人の報告があり、増加傾向となっている。引き続き、基本的な感染予防対策を続けることが重要である。
- 腸管出血性大腸菌感染症の今年の累計報告数は、7月12日時点で33件となり、昨年の年間報告数（31件）を上回った。また、直近20年間の同時期で最多となった。感染予防には、加熱が必要な食品の十分な加熱、野菜・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。
- 麻しんは第25週（6月15日～21日）に2件の報告があり、今年の累計は3件となった。国立健康危機管理研究機構（JIHS）の感染症発生動向調査（IDWR）速報では、全国の週別報告数は第17週（4月20日～26日）の71件をピークに減少傾向で、第23週（6月1日～7日）以降は10件未満の報告が続いている。

(3) 6月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核11件（患者：6件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 8件
- 4類感染症：レジオネラ症 3件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件、急性脳炎 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 10件、破傷風 1件、百日咳 3件、麻しん 2件

(4) 今後の流行予測

手足口病、ヘルパンギーナ・・・【流行中】

2 検査情報

6月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2 型	4 月	1 人
その他の呼吸器疾患（肺炎）	アデノウイルス 1 型	3 月	1 人

2 人の患者から 2 種類のウイルス 2 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A2 型、アデノウイルス 1 型が各 1 株であった。

【参考】ARI 病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載																	
検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス A H1pdm09	インフルエンザウイルス A H3	B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第23週	15	12				2	1	2							6		5
第24週	13	8						2	1		1		1		2	1	2
第25週	14	8						3	1		1		1		3	4	1
第26週	15	11				1		1	3		3		3		3	2	3
第27週	15	11	1					4	2		2	1	3	1	3	1	1

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

5類感染症定点情報
(令和8年6月解析分)

1. 週報対象(第23週～第27週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	急性呼吸器感染症(ARI)	⇨	9,200	270.58		11	突発性発しん	⇨	28	1.33	
2	インフルエンザ		7	0.21		12	ヘルパンギーナ	↑	193	9.20	流→
3	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	⇩	56	1.63		13	流行性耳下腺炎		4	0.19	
4	RSウイルス感染症	↑	48	2.29		14	急性出血性結膜炎		—	—	
5	咽頭結膜熱	⇨	51	2.44		15	流行性角結膜炎		14	1.76	
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇩	230	10.95		16	細菌性髄膜炎		—	—	
7	感染性胃腸炎	⇨	504	23.99		17	無菌性髄膜炎		1	0.17	
8	水痘	⇨	46	2.19		18	マイコプラズマ肺炎		5	0.84	
9	手足口病	↑	420	20.00	流→	19	クラミジア肺炎		1	0.17	
10	伝染性紅斑		6	0.29		20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—	—	

2. 月報対象(6月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	⇩	22	2.44
2	性器ヘルペスウイルス感染症		9	1.00
3	尖圭コンジローマ		11	1.22
4	淋菌感染症		12	1.33
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇨	17	2.83
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		—	—

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	⇨	⇩
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	⇨	⇩
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇨	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和8年6月分)

第23週～第27週(6月1日～7月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	11	69	1,552	7,379
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	4	40
	17 腸管出血性大腸菌感染症	8	32	582	1,461
	18 腸チフス	-	-	3	20
	19 パラチフス	-	-	5	11
四類	20 E型肝炎	-	1	73	362
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	40	145
	23 エキノコックス症	-	-	1	8
	24 エムボックス	-	-	14	77
	25 黄熱	-	-	-	-
	26 オウム病	-	-	2	3
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-
	28 回帰熱	-	-	2	3
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	30 Q熱	-	-	-	-
	31 狂犬病	-	-	-	-
	32 コクシジオイデス症	-	-	2	5
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	1	31	96
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	2
	40 つつが虫病	-	-	6	59
	41 デング熱	-	-	8	41
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	1	100	208
	46 日本脳炎	-	-	-	2
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	6	22
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	-
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	3	12	325	1,065
	62 レプトスピラ症	-	-	-	4
	63 ロッキーマウンテン紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	5	55	257
	65 ウイルス性肝炎	-	3	23	106
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	3	104	508
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	4	13
	68 急性脳炎	1	5	62	256
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	5
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	10	77
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	102	709
	72 後天性免疫不全症候群	-	2	116	494
	73 ジアルジア症	-	-	5	21
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	57	305
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	4	34
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	11	226	1,653
	77 水痘(入院例に限る。)	-	1	106	463
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 多剤耐性緑膿菌感染症	-	-	39	96
	80 梅毒	10	58	1,306	5,892
	81 播種性クリプトコックス症	-	1	17	92
	82 破傷風	1	2	10	50
	83 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	84 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	5	45
	85 百日咳	3	27	493	3,594
	86 風しん	-	-	-	2
	87 麻しん	2	3	24	547
	88 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	3	9